

1月31日 参院予算委員会

高野光二郎参院議員

「カツオは近年、漁獲量が減少している。高知県経済に与える影響は大きく、漁業者をはじめとする関係者の危機感が大変強まっている。日本にカツオを、未来にカツオ資源を取り戻すため、高知県カツオ県民会議が昨年4月立ち上がった。産官学オール高知家でやっている。4つの分科会を立ち上げ、最終的には国の交渉を後押しし、資源管理の強化と、資源の回復が実現するように取り組んでいる」

「首相に聞く。漁業が厳しい中、水産資源の回復は急務だ。首相が施政方針演説述べた『漁獲量による資源管理の導入』とは、水産資源が安定して成長している欧米、オセアニアなどで導入している、アウトプットコントロールを基本とする、TAC制度（漁獲枠、漁獲数量規制）と、IQ方式（個別割り当て）など、科学的根拠をもとにした資源管理の目標を導入するという考えか。水産資源の持続可能性と資源管理の基本的方向性について聞く」

首相

「かつて日本は水産王国と言われた。地元の下関は水産の町と言われたが、近年は大変状況が厳しくなっている。資源管理の方向も含め、水産業については、この夏を目途に、改革に向けた具体的な工程表を策定し、速やかに実行に移していく。これにより、資源管理と水産業の成長産業化を実現させていく考えだ。魚の食文化をもっともっと広げていく」

斎藤農水相

「水産業の改革は、いよいよ待ったなしの局面になったと、厳しい認識をもっている。なによりも、成長産業化を進めて行くためには、資源を維持、回復し、適切に管理するのが必須だ」

「水産資源の管理においては、国際的にみて遜色のない、科学的、効果的な評価方法、管理方法とするために、資源調査を抜本的に拡充して、国際水準の資源評価を実施する。その成果を活用して、我が国周辺の水域の適切な資源管理のため、関係国との協議も進めていく」

「主要水産資源については、アウトプットコントロール、これは例えば、漁獲可能量だとか、そういったものを設定するということだが、このアウトプットコントロールを基本として、インプットコントロール、これは漁船の隻数やトン数を制限する方法だ。これと、漁具の制限であるテクニカルコントロールと合わせ、アウトプットコントロールを基本に、インプットコントロール、テクニカルコントロールを組み合わせた資源管理を実施していきたい」

「アウトプットコントロールについては、漁業の実態を踏まえつつ、可能な限り個別割り当て、IQ方式を活用する、こういう方向で検討を進めている」

「今後の水産政策の在り方については、こうした資源管理の見直しも含め、検討を深めて、この夏を目途に改革案の骨格をとりまとめ、速やかに実行していきたい。これによって、資源管理と成長産業化を両立させ、漁業者の所得向上を実現していきたい」